# 「もったいない」を「ごちそうさま」に
# 子ども食堂へ全国初の取り組み



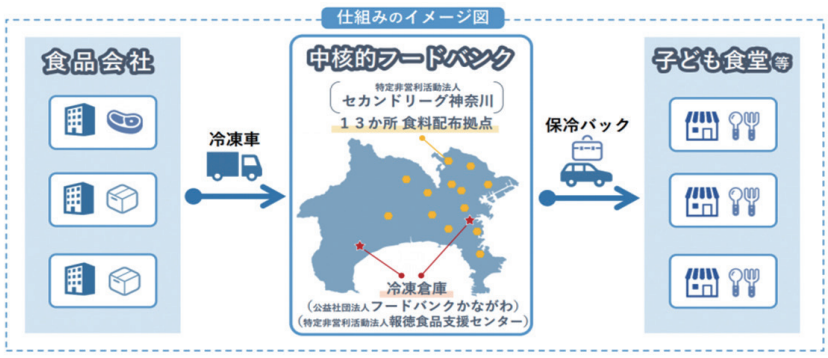
神奈川県内には４８４カ所の子ども食堂があります（令和５年度調査）

食べられるのに捨てられている食品、いわゆる【食品ロス】削減の取り組みの一つとして、未利用食品を【フードバンク】に寄附し、活用する取り組みが民間主導で行われています。お米や缶詰、レトルト品など、常温保存ができる消費期限の長い食品がフードバンク等へ寄贈され、その寄附量は令和２年度の４３トンから令和４年度には３倍近い１１９トンまで増え、子ども食堂等で活用されています。

そうした中、子ども食堂からは「メニューの幅が広がる肉や魚等の冷凍食品があるとありがたい」との声が寄せられました。

**捨てられる冷凍食品！**

横浜港、川崎港には、海外から輸入される冷凍食品が船上げされ、特に東扇島は国内随一の拠点となっています。一方、輸送時の荷崩れによる外箱の毀損や検疫のための開封等により市場に出荷できない冷凍食品も相当量あり、その廃棄にも費用がかかります。




「食べられるのに捨てられていた冷凍食品」を、フードバンクや子ども食堂等で扱うようになれば、ＳＤＧｓの目標１２のフードロス削減や、目標２の生活困窮対策などの達成に貢献すると考え、公明党は県に対し「こうした取り組みを行うフードバンクを後押しすべきである」と令和６年第１回定例会本会議で提言しました。

**フードバンクで活用を！**

この提言を受け、県は、県内の中核的なフードバンクと連携し、食品会社から寄付された冷凍・冷蔵のロス食品を、地域の食品配布拠点を通じて、県内全域の子ども食堂等に向けて提供する全国初の取り組みを始めることになりました。冷凍食品の輸送に関しても、賛同企業の寄付金を広く募り、費用負担の軽減を目指します。

「もったいない」を「ごちそうさま」に。

これからも、子ども達の笑顔があふれる社会の実現に向け、全力で活動してまいります。

# 痴漢や性犯罪をデジタル技術で撃退！

西村くにこは、昨年１２月の神奈川県議会本会議で痴漢撲滅に向けた取り組みについて質問し、電車内の防犯カメラ設置の推進や加害者の再犯防止プログラム実施、そしてスマートフォンの防犯アプリを県警察が主体となって開発することを要望していました。



現在、神奈川県警察で配信している痴漢撃退のためのヘルプカード

**痴漢被害対策アプリ**

本年６月１９日、公明党の代表質問に対し、直江利克県警察本部長は、「県警察が発信する防犯情報等を、スマートフォンなどで受信閲覧できるモバイルアプリを本年度中に整備する。アプリでは、位置情報と連携した不審者情報の地図上での確認、遺失物の届出、音声やブザーなどによる痴漢対策、痴漢被害遭遇を周囲の人が確認できる画面表示、画面上のボタンでの１１０番通報、といった機能を導入する」と答えました。

**ＬＩＮＥで性被害相談**

また、７月２日には、ＬＩＮＥで性犯罪などに関する相談を受ける「かながわ性犯罪相談ＬＩＮＥ」が開設されました。７月１２日には川崎駅で公明党神奈川県本部所属の女性議員有志が集い、「かながわ性犯罪相談ＬＩＮＥ」のチラシを配りながら、「痴漢撲滅・性犯罪被害防止」を呼びかける街頭演説会を挙行しました。西村くにこは、性別・年齢にこだわることなくチラシを配布させていただきました。痴漢や性犯罪の被害者に代わって、気付いた人が声を上げることも重要だと考えたからです。

かながわ性犯罪相談ＬＩＮＥ




痴漢や性犯罪の被害者を一人にしない。そのために西村くにこは、今後も具体的な提案と行動を続けてまいります。